

学校教育目標		ふるさとを愛し、心豊かにたくましく、未来をつくる三池っ子の育成		重点目標	「学び合い」「認め合い」でもに伸びる子供の育成			
評価計画				自己評価				
重点目標	目標達成のための方策(取組指標)	目指す児童の姿(成果指標)	評価	結果(成果○と課題△)	評価	コメント	次年度における改善策	
重点目標に関する評価	重点目標達成にむけた組織の充実	2部会(学力向上部会、生活力向上部会)を構成し、低・中・高学年ごとに実施に即した具体的なめざす姿を設定し、PCDAサイクルをもとに学力向上プランの共通実践を図り、子どもたちの達成感や成就感の向上を行っている。【目標値:担任用重点目標振り返りシート到達度 8/10点以上】	3	2部会において重点目標アンケートをもとに毎月の成果と課題を明確にし翌月の重点項目の設定を授業レベルで行ったことで、児童一人ひとりの課題解決能力が高まってきた。 ○毎月「学び合い」「認め合い」に関する具体的な取組項目を設定・実践・評価をしてきたことで、児童が明確な目標を持って重点目標の達成に向けて取り組む基盤ができてきている。	A	学校の評価は適切である。 ・学力面、生活面の両面で、全校で重点目標の達成に向けた取組の成果が見られている。今後もこのよき流れを大切に継続して欲しい。	グループ学習やペア学習を効果的に取り入れ児童が主体的に自分の考えを伝え合う力を育む。 ・教職員のキャリアステージごとの具体的な指導力のゴールを設定し、それを通し指導力の向上を図り、重点目標の達成を目指す。	
	夢を持つ確かな学力的に学びに付けた子(学び合い)	学習の導入段階で、既習を振り返らせたり、生活場面と連動した課題を持たせるような問題を提示したりして、児童に自分なりの「めあて」をつくらせる場面を設定している。【目標値:担任用重点目標振り返りシート項目① 2.75以上】	授業の中で学習内容をつかみ、課題を見だし、自分なりに「めあて」を考える子ども 【目標値:重点目標アンケート項目① 2.75以上】	3	算数科を中心に新たな課題に対して既習を生かせば、解決の糸口につながるという学びを繰り返したことで、既習と比較しながら「めあて」を立てる子どもが増えた。 △CD層の児童が課題をよりイメージできるような問題提示の仕方や既習の活用方法に改善の余地がある。	B	学校の評価は上方修正すべきである。 ・児童が落ち着いた雰囲気の中で熱心に学習に取り組んでいる。 ・児童自身で「めあて」を立てることができていることは素晴らしい。 ・既習を基にめあてを作っていく授業づくりが有効で、その成果が表れている。 ・自分の意見や考えを引き出すための工夫が行われている。	子どもが主体となる学びを意識した授業改善を行う。 ・児童が既習と比較しながら、自分事として本時の学習課題を考えるような流れを仕組む。 ・算数科において生活場面に関連した条件や数値等を意図的に設定しCD層が課題をよりイメージできるようにする。
		学習の展開前段で、自分で考えたり、友だちの考えを参考にしたりして課題解決までの解答や考え方の見通しを持たせ、多様な方法での実行錯誤を促している。【目標値:担任用重点目標振り返りシート項目② 2.75以上】	課題に対してこうしようかな、どの考え方で解こうかな、と自分の考えを図や文に表現する子ども 【目標値:重点目標アンケート項目② 2.75以上】	3	既習図の提示や前時までのノートを振り返る場を意識してきたことで自力解決に既習を活用しようとする児童が増えてきた。 △自分の考えを順序立てて説明したり図や式に表したりする場面における個人差が大きいため、系統的な指導を今後も継続して行い、力を付けさせていく必要がある。	B	・学校全体として学力向上に向けた授業改善にしっかりと取り組まれている。 ・9カ年の小中連携を軸にした学力向上に今後も取り組んで欲しい。 ・各学年で地域素材を活用した学習に取り組んでいて、とても素晴らしい。 ・地域体験学習を通して地域の特色をより深く知るとともに、これからも故郷を大切に思う心を育ててほしい。	自力解決の際に必要な情報、キーワードなど収集、選択させ、それを基に交流のベースとなる考えを持たせる。 ・算数科において、自分の考えを図や式、言葉を使って作り上げる自力解決の時間を確保する。 ・音読、条件作文、視写、辞書活用等といった国語の基礎力育成につながる取組を継続的に行う。
		学習の展開後段で、理由やわけを基に自己の考えを他者に伝える交流活動をさせている。【目標値:担任用重点目標振り返りシート項目③ 2.75以上】	「理由やわけ」を付け加えながら自分の考えを伝えることができる子ども 【目標値:重点目標アンケート項目③ 2.75以上】	3	一問一答にならないように、思考をゆさぶる発問を意識してきたことで、児童が理由やわけを意識して伝えるようになった。 △児童相互で発言をつなぎ交流を高めていく学習が浸透してきている。今後は、その内容をさらに磨いていく必要がある。	B	・地域学習の取組は地域にとっても大きな財産であり、これからも大切にしていきたい。 ・150周年という母校の歴史の1ページを大切にしたい取組が素晴らしい。	・発達段階に即して、結論と理由を分かりやすく伝える発表の仕方を学ばせる。 ・自他の考えを比較検討する活動を設定し、共通点や差異点を基に話し合い、それを元にまとめをつくる授業を仕組む。 ・地域学習の取り組み方を見直し、自分の考えや思いの発信までを意識した内容にする。 ・総合的な学習の時間や生活科において、学んだことを今後の自分の行動にどうつなげていくかを考え、発信する活動を単元末に位置付ける。
		学習の終末段階で、考えの比較検討を基にまとめを作り上げたり、自己の学習の振り返りをする活動をさせている。【目標値:担任用重点目標振り返りシート項目④ 2.75以上】	先生や友達の話をしっかり聞き、学習のまとめを作り上げ、めあてを振り返る子ども 【目標値:重点目標アンケート項目④ 2.75以上】	3	理由やわけの根拠となる大切なキーワードを意識させたことでまとめを自分の言葉で作るようになってきた。 ○児童がめあてとまとめの関連性を意識しながら学習を振り返るようになってきた。	B	・学校の評価は適切である。 ・一人ひとりの児童を大切にしながら自尊感情を高める取組が行われている。 ・児童の自己実現につながる教育を今後も推進して欲しい。	自分のよさ、友達のよさを振り返る時間を帰りの会などに設定し自尊感情を高めるようにする。 ・学習のまとめ段階において、新たな発見や学びを通して自他のよさを振り返る場面を設ける。
		生活科や社会科、総合的な学習の時間の授業において、【ふるさと大牟田・三池】を持続可能な社会とするため、自分たちができることを考えさせ、その実践化につなげている。【目標値:学期ごと教育活動評価 2.75以上】	ふるさと大牟田のために何ができるか考え、実行する子ども 【目標値:三池っ子アンケート項目① 2.75以上】	4	創立150周年や地域体験学習を通して、三池小学校や三池校区のよさを実感し、それを発信することができた。 △自分たちでできることを見つけ出して行動したり、発信をしたりするといった側面で、地域体験学習のカリキュラムの付加修正・強化に改善の余地がある。	A	・学校の評価は適切である。 ・一人ひとりの児童を大切にしながら自尊感情を高める取組が行われている。 ・児童の自己実現につながる教育を今後も推進して欲しい。	・2部会で各学年の具体的な取組例を情報交換し、好事例については共通実践化する。 ・あいさつ運動やメルシーアーチの取組などの後、観点に沿った振り返りを通し、相手の立場に立った行動のよさを再確認させる。 ・全校朝会において月の生活目標の達成に向けた数値目標を示し、児童への確実な浸透を図る。 ・規範意識や交通ルールなど、きまりやモラルについては、全校放送等で適宜確実な指導を行う。
やさしく自分も他者も大切にしたい(認め合い)	日々の教育活動を通して、あいさつの重要性やきまりや約束の意味を理解させ、それを実践できるよう指導している。【目標値:担任用重点目標振り返りシート項目⑤ 2.75以上】【目標値:学期ごとの教育活動評価項目 2.75以上】	場や状況に応じた気持ちのよいあいさつができる子ども 【目標値:重点目標アンケート項目⑤ 2.75以上】 きまりや約束の意味を理解し、それを守る子ども 【目標値:三池っ子アンケート項目② 2.75以上】	4	児童会によるあいさつ運動の継続的な取組が浸透し、あいさつの3S(ストップ、スピード、スマイル)を意識した行動が定着している。 ○きまりの重要性を自分事として捉えていることが、校内での大きな事故やけがの未然防止につながっている。	A	・学校の評価は適切である。 ・一人ひとりの児童を大切にしながら自尊感情を高める取組が行われている。 ・児童の自己実現につながる教育を今後も推進して欲しい。	・自分のよさ、友達のよさを振り返る時間を帰りの会などに設定し自尊感情を高めるようにする。 ・学習のまとめ段階において、新たな発見や学びを通して自他のよさを振り返る場面を設ける。	
	最後まで相手の話を聞く等、相手の立場や思いを大切にしたい学び合いを取り組ませ、児童が協力しあって課題を解決させるための課題や活動を設定している。【目標値:担任用重点目標振り返りシート項目⑥ 2.75以上】	最後まで相手の話を聞いたり、学級の課題を話し合ったりしながら、協力して課題解決や人間関係づくりができる子ども 【目標値:重点目標アンケート項目⑥ 2.75以上】	4	相手の立場に立った言動ができる児童が増え、話し合い活動を通して折り合いを付けて課題解決に向かう姿が多く見られるようになった。 ○相手の立場に立った行動や協力して課題解決に取り組む風土が定着してきている。	A	・学校の評価は適切である。 ・一人ひとりの児童を大切にしながら自尊感情を高める取組が行われている。 ・児童の自己実現につながる教育を今後も推進して欲しい。	・自分のよさ、友達のよさを振り返る時間を帰りの会などに設定し自尊感情を高めるようにする。 ・学習のまとめ段階において、新たな発見や学びを通して自他のよさを振り返る場面を設ける。	
	友達のよさに気づくことができるような場を、日々の授業や朝の会・帰りの会などに設定し、子どもたちの意識の向上を行っている。【目標値:担任用重点目標振り返りシート項目⑦ 2.75以上】	友達のよさ(気持ちのよいあいさつができる、友達に優しい言葉かけができる等)を見つけていることができる子ども 【目標値:重点目標アンケート項目⑦ 2.75以上】	3	朝の会、帰りの会でのよいところ発表で、自尊感情が高まってきている。 ○毎月の重点目標の振り返りを通して、自分自身のがんばりやよさを客観視できるようになってきている。また、それを通して友達のよさや自分たちのよさに新たに気づくこともできている。	B	・学校の評価は適切である。 ・一人ひとりの児童を大切にしながら自尊感情を高める取組が行われている。 ・児童の自己実現につながる教育を今後も推進して欲しい。	・自分のよさ、友達のよさを振り返る時間を帰りの会などに設定し自尊感情を高めるようにする。 ・学習のまとめ段階において、新たな発見や学びを通して自他のよさを振り返る場面を設ける。	
学校生活	進んで健康や運動やでしあきらめな育成の子	きまりを守って安全に他の児童と一緒に様々な運動や外遊びに楽しく取り組む子ども 【新体力テスト結果:DE昨年度値 -5%達成】	4	児童の実態に即したルールや実施方法の工夫により、学級での外遊びやたわり遊びに積極的に参加する児童の姿が多く見られる。 △体育科学習指導を中心にD E層の児童の運動に対する苦手意識を解消できるような場づくりに改善の余地がある。	A	・学校の評価は適切である。 ・受傷件数が前年度よりさらに減っており、安全についての指導が行き届いていることがわかる。 ・運動や外遊びの取組の工夫が体力テストの結果にも反映されている。	・持久走記録会やたわり遊びなどの実施方法やルールを工夫した体力の課題に応じた運動や遊びの機会を設定する。 ・体育の学習の導入等において敏捷性・柔軟性などを高める運動を意図的に設定し、体力テストで課題となっている力の向上を図る。	
	いじめ防止	未然防止	衛生面や安全面に気を付けて危険を察知したり、自分の体のことをきちんと伝えたりして学校生活が送れるように指導している。【目標値:担任用重点目標振り返りシート項目【学校生活】2.75以上】	4	年度当初に養護教諭より保健室利用に関する職員研修を行うとともに、職員会議、終礼等においても共通理解を強化したことで、各学級での指導が徹底され、けがや体調不良の原因を振り返ることができる児童が増えた。 ○保健室からの各学級への毎日のお知らせがけが等の未然防止につながっている。	A	・学校の評価は適切である。 ・危険な遊びや廊下を走るなどの危険行為について情報共有し、共通理解の上で指導を徹底する。 ・通学路や校区内の危険箇所について学校と保護者、地域で情報共有し、子どもたちの安全な学校生活の基盤づくりに努める。	
		早期発見 早期対応	日常の教育活動を通して、交通ルールや危険な行動について理解させ、命を守る行動の徹底、けがの防止についての指導をしている。【目標値:学期ごとの教育活動評価項目 2.75以上】	4	全職員で安全点検を確実に実施するとともに、危険が予見されるような案件については、随時、全校放送などで注意喚起を徹底した結果、受傷件数の大幅な減少につながった。 ○職員の危機管理意識も高い水準で維持されている。	A	・学校の評価は適切である。 ・道徳の時間を軸にした心や命の教育が確実に実践されている。 ・いじめチェックリストによる確実な聞き取りと対応を中心に、安心して学校生活を送るための体制ができています。 ・SCの活用による相談体制やサポートの充実が心強い。	
不登校防止	未然防止	豊かな情操と道徳心を培うことを目標に、道徳の時間や体験活動の充実を図る学級経営を行っている。【目標値:学期ごとの教育活動評価項目 2.75以上】	3	道徳の時間に価値項目に沿って自分の行動や気持ちについて見つめ直す場を強化したことで道徳の実践を高めることができた。 ○スクールカウンセラーの校内巡回をもとにした専門的視点からの助言がはじめ案件の未然防止につながっている。	B	・学校の評価は適切である。 ・道徳の時間を軸にした心や命の教育が確実に実践されている。 ・いじめチェックリストによる確実な聞き取りと対応を中心に、安心して学校生活を送るための体制ができています。 ・SCの活用による相談体制やサポートの充実が心強い。	・道徳の時間で学んだことを学級活動で生かせるように価値項目と関連付けさせた話し合い活動を設定する。 ・全職員で「いじめは絶対に許さないものである」という毅然とした姿勢」と「いじめの芽を早期に摘むという意識」を共有する。 ・帰りの会における一日の振り返りの時間を効果的に活用し、自分や友達のよさをみつける活動に取り組む。	
	早期発見 早期対応	毎月いじめチェックリストを実施し、気になる変化やトラブルが明らかになった時、迅速に対応しそれを記録している。【目標値:学期ごとの教育活動評価項目 2.75以上】【スクールカウンセラー、SSWとの連携:100%】	3	いじめチェックリストでの気になる案件について、確実な聞き取りと対応が定着し、児童が安心して登校できる学校環境づくりにつながっている。 ○スクールカウンセラーの助言をいかした早期対応、事後のフォロー体制がサポートの充実につながった。	B	・学校の評価は適切である。 ・道徳の時間を軸にした心や命の教育が確実に実践されている。 ・いじめチェックリストによる確実な聞き取りと対応を中心に、安心して学校生活を送るための体制ができています。 ・SCの活用による相談体制やサポートの充実が心強い。		
働き方改革	教職員の意識改革	生徒指導の4機能(自己決定・自己存在感・共感的人間関係・安全・安心な風土の醸成)を導入し、児童の自己概念を育む学級経営を行っている。【目標値:学期ごとの教育活動評価 2.75以上】	3	得意なことや自慢できることを持ち、自分は誰かの役に立っていると感じ、自分を大切にしている子ども 【目標値:学期ごとの生活アンケート項目・自己概念2.75以上】	3	児童の自己概念を育む声掛けが各学級でなされており、それが児童一人ひとりの登校意欲にもつながっている。 △不登校傾向児童に対しては、SCの助言をもとに保護者へのサポートも含めた連携を強化させていく必要がある。	・学校の評価は適切である。 ・学校全体として自己概念を育む教育を実践しており素晴らしい。 ・福岡アクション3に基づいた迅速な電話連絡、家庭訪問など、児童や保護者に寄り添った対応を継続することが安心にもつながる。 ・保護者へのサポートもきちんとしておりそれが信頼にもつながっている。	・児童の頑張りや取組を価値付けて、自分のよさを具体的に気づかせ、更なる自己概念の向上を図る。 ・福岡アクション3に基づいた迅速な電話連絡、家庭訪問など、児童や保護者に寄り添った対応を継続する。 ・SCやSSWの専門的助言等を訪問時のフィードバックの時間に職員で共有し、それをもとに保護者との連携を強化する。
	業務改善の推進	福岡アクション3を確実に実行し、児童の変化(対人関係・言動)に気づき、即時対応・確実な記録・報告・情報共有を行っている。【目標値:学期ごとの教育活動評価 2.75以上】	3	学校に行くのを毎日楽しみにしている子ども 【目標値:学期ごとの生活アンケート項目・登校意欲 2.75以上】	3	福岡アクション3をベースに電話連絡や家庭訪問による即日対応を確実に取り組んできたことが家庭との信頼関係の構築に大きくつながっている。 △職員間の情報共有の場を確保していく。	・学校の評価は適切である。 ・職員の意識改革の成果が月80時間以上の超過勤務0につながっている。 ・業務改善委員会の取組が働きやすい職場づくりにつながっている。	・2か月先までの業務計画を立て、職員のタイムマネジメント力の向上を図るとともに、状況に応じた柔軟な対応を図っていく。 ・会議資料の電子化、サーバーデータの共有化を推進し、業務の更なる効率化を図る。
働き方改革	学校閉庁時刻(19時)での退校及び学校閉庁日の設定を行っている。【定時退校日の週計画表、黒板での周知】	仕事全体の見直しを持って、業務を限られた時間の中で効率よく進めるタイムマネジメントを行っている職員【目標値:学期ごとの教育活動評価 2.75以上】	3	超過勤務月80時間以上の職員0が継続できている。 △超過勤務月45時間以上については解消が非常に難しい。タイムマネジメントの徹底と意識改革が必要である。	A	・学校の評価は適切である。 ・職員の意識改革の成果が月80時間以上の超過勤務0につながっている。 ・業務改善委員会の取組が働きやすい職場づくりにつながっている。	・2か月先までの業務計画を立て、職員のタイムマネジメント力の向上を図るとともに、状況に応じた柔軟な対応を図っていく。 ・会議資料の電子化、サーバーデータの共有化を推進し、業務の更なる効率化を図る。	
働き方改革	業務改善委員会を実施し、超過勤務状況の把握と日常の業務の効率化を図っている。【毎月1回の実施】	教職に生きがいを感し、働きやすい職場だと感じている職員【目標値:学期ごとの教育活動評価 2.75以上】	3	業務改善委員会が定着し会議のスムーズ化ができた。 △業務の効率化に向けたICTの活用、サーバーデータの整理・再活用など改善の余地がある。	A	・学校の評価は適切である。 ・職員の意識改革の成果が月80時間以上の超過勤務0につながっている。 ・業務改善委員会の取組が働きやすい職場づくりにつながっている。	・2か月先までの業務計画を立て、職員のタイムマネジメント力の向上を図るとともに、状況に応じた柔軟な対応を図っていく。 ・会議資料の電子化、サーバーデータの共有化を推進し、業務の更なる効率化を図る。	

◇ 評価について ・【自己評価】 4:目標達成(90%以上) 3:ほぼ達成(70%~90%) 2:もう少し(60%~70%) 1:できていない(60%未満)  
・【学校関係者評価】 A:自己評価は適切である B:自己評価は上方修正すべきである C:自己評価は下方修正すべきである